

編集後記

読者のみなさんいかがお過ごしでしょうか。

近頃は、異常気象が多くなったと言われます。今年の夏は、猛暑かどうか気になるところです。

さて、メンテナンスへの取り組みは、急激な展開を見せているような気がします。

今回の報文は、維持管理における点検、補修のシステムや新技術などの紹介を主にしております。一端を捉えたに過ぎないかと思いますが、具体的にどのような状況にあるのか、知る機会のひとつになるのではないのでしょうか。

報文の内訳は、工法1件、システム1件、ダム1件、点検4件、補修4件、リニューアル1件になっております。分野別ですと、橋5件、舗装2件が多く、ダム、のり面、鋼材腐食、ガードレール、側溝各1件です。

ハイウェイテクノフェアや、国交省のけんせつフェアなどに出席された技術から多数選ばせていただきました。

巻頭言は、当協会の昨年の「建設施工と建設機械シンポジウム」でご講演いただいた、橋にご造詣の深い橋梁調査会の西川専務理事にお願いしました。

維持管理に関しては、官民あげて、新技術の開発を進めておられる状況です。まだ、開発途上、企画段階のものもあり、本特集では、なるべく実績のあるものを取り上げたつもりです。

なにしろ、膨大な社会資本ストックが対象ですから、予算の制約の中で維持管理を最適化することが求められています。

部分的、対症療法的ではなく、システムチックで、全体のレベルを上げる取り組みが必要となるわけです。

なるべく最近の事例となるよう気を配ったつもりですが、幅広い分野をカバー出来なかった気もしております。

維持管理の難しいところは、外観を検査してかなりの保全が可能であるが、重大な事故というのは、内部で進行して表面に出てこない損傷に起因することもあるということかなと思います。人間の体でも、定期検診で異常を検知して、それでかなり予防が可能なのですが、実際には、全然検査に引っ掛からない箇所または、検査しない、検査できない箇所が原因で健康を害することもあるわけです。

ローマ時代の建造物などよく現代まで生き残っていると感心しますが、鉄やコンクリートで千年持つものを作るのは、果たして可能なのでしょうか。実用的には、百年持てば、十分な気がします。何もしなくても百年持てばすごいことだと思います。

結果的に最も関心の高いであろう道路関係が多くなってしまいました。他の分野は、あまり最近の動向がつかめませんでした。ダムについては、排砂が大掛かりな設備によって、なされようとしております。長寿命化、リニューアルももっと事例があればよかったかと思えます。

最後になりましたが、お忙しい中突然の依頼に快く応じていただき、執筆にご協力いただきました各位、また、仲介の労をとっていただいた方々に深く感謝いたします。

(江本・藤島)

機関誌編集委員会

編集顧問

今岡 亮司	加納研之助
後藤 勇	佐野 正道
新開 節治	関 克己
高田 邦彦	田中 康之
塚原 重美	中岡 智信
中島 英輔	橋元 和男
本田 宜史	渡邊 和夫

編集委員長

田中 康順 鹿島道路(株)

編集委員

吉田 潔	国土交通省
三浦 弘喜	農林水産省
伊藤 健一	(独)鉄道・運輸機構
篠原 望	鹿島建設(株)
立石 洋二	大成建設(株)
藤内 隆	清水建設(株)
赤井 亮太	(株)大林組
久保 隆道	(株)竹中工務店
安川 良博	(株)熊谷組
川西 健之	(株)奥村組
京免 継彦	佐藤工業(株)
岡田 英明	五洋建設(株)
齋藤 琢	東亜建設工業(株)
赤神 元英	日本国土開発(株)
相田 尚	(株)NIPPO
岡本 直樹	山崎建設(株)
太田 順子	コマツ
大塚 清伸	キャタピラージャパン(株)
小倉 弘	日立建機(株)
上田 哲司	コベルコ建機(株)
石倉 武久	住友建機(株)
和田 一知	(株)KCM
江本 平	範多機械(株)
藤島 崇	施工技術総合研究所

事務局

日本建設機械施工協会

8月号「河川・海洋・海岸・港湾特集」予告

港湾の技術開発にかかる行動計画

自然インフラ砂丘等を守る「浜屋後退抑止工」

津波・高潮防災のための技術開発

パラレルメカニズムと建設施工技術への応用

止水部に凍結技術を利用した仮設ドライアップ工法

水圧吸引式ダム堆砂対策の開発

環境に配慮した深層混合処理船への設備更新

省エネルギーグラブ浚渫船 Hybrid「第381良成丸」

作業船における予知保全技術と適用事例紹介

福田漁港・浅羽海岸サンドバイパスシステム

岸壁のリニューアル工法 2段タイ材地下施工法

名古屋港ケーソンの中詰工事

海底資源開発における施工方法に関する考察

建設機械施工

第66巻第7号(2014年7月号)(通巻773号)

Vol.66 No.7 July 2014

2014(平成26)年7月20日印刷

2014(平成26)年7月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 辻 靖三

印刷所 日本印刷株式会社

発行所 一般社団法人日本建設機械施工協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所 〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154

電話 (0545) 35-0212

北海道支 部 〒060-0003 札幌市中央区北3条西2-8

電話 (011) 231-4428

東北支 部 〒980-0802 仙台市青葉区二丁目16-1

電話 (022) 222-3915

北陸支 部 〒950-0965 新潟市中央区新光町6-1

電話 (025) 280-0128

中部支 部 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-17-10

電話 (052) 962-2394

関西支 部 〒540-0012 大阪市中央区谷町2-7-4

電話 (06) 6941-8845

中国支 部 〒730-0013 広島市中区八丁堀12-22

電話 (082) 221-6841

四国支 部 〒760-0066 高松市福岡町3-11-22

電話 (087) 821-8074

九州支 部 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-4-30

電話 (092) 436-3322

本誌上への
の広告は



有限会社 サンタナ アートワークスまでお申し込み、お問い合わせ下さい。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-21-5 井手口ビル4F TEL: 03-3664-0118 FAX: 03-3664-0138

E-mail: san-mich@zam.att.ne.jp 担当: 田中